

岡田コミュニティセンター 市長と語る会

日 時：令和5年11月22日（水） 午前15時00分～17時00分

場 所：岡田コミュニティセンター

参加者：13名

担当者：市長、地域担当職員 横井（高齢者支援課）・國重（高齢者支援課）、塩田（広聴広報課）、中原（広聴広報課）

1. あいさつ

（会長）

本日は岡田地区にお越しいただき、感謝申し上げます。市長もご存知だと思うが、当地区は高齢化がかなり高く、また人口減少も進んでおり、今後、コミュニティ活動をしづらくなっていくことが懸念されている。限られた時間ではあるが、岡田地区に対して、より良い回答がいただけることを期待して、あいさつとさせていただきます。コミュニティの役員の方々には出席いただき感謝申し上げます。色々なご意見、よろしく願います。

（市長）

日頃から市に対して、ご理解やご支援、ご協力をいただき、まずはお礼を申し上げます。本日は市長と語る会のために調整していただき、また、たくさんの方に集まっていたいただき、感謝申し上げます。

約3年数か月続いたコロナの行動制限も解かれ、その間、コミュニティ活動では色々なご苦労があり、工夫をされながらご尽力いただいたことは承知している。本日はコミュニティの実情や苦労されていること、日頃の活動などをお聞かせいただき、今後のまちづくりに一生懸命取り組んでいこうと思っているので、忌憚のない意見をいただければと思う。

ここ最近で嬉しかったことを2つだけ紹介させていただきたい。

まず1つ目は、今年の夏に日経ビジネス総合研究所が発表した、住みやすいまちランキングで丸亀市が全国19位であったこと。中国四国地区では、断トツナンバーワンの結果である。内容について簡単に説明すると、気候が穏やか、自然災害が少ない、この2項目が高得点であった。ほかには、介護サービスを受けやすい、医療が充実している、自然環境が豊か、公園が多い、まちが静か、まちの歴史伝統などに関わる文化資源が豊富、これらも高得点であった。また、保育所、幼稚園、こども園が充実しているなど、子育て関連の項目が高く評価された。順位で見ると、1位は東京都武蔵野市、2位は千代田区。東京などの大都市が上位を占めている中で、丸亀市が入っていたことがとても嬉しかった。

2つ目は、10月にグリーンディステーションという団体によって、持続可能な観光として、丸亀市のうちわが世界百選に選ばれたこと。

丸亀市ではマイスター制度により伝統工芸士の育成をしており、現在31名いる。この中には県外から引っ越してきて丸亀でうちわを作ってくれている方もいる。このように、うちわ技術の継承者を作る取り組みを丸亀市は行っており、これが世界百選に選ばれたことは

大変うれしく思っている。ここ最近は美術品のような数千円するうちわを売ろうとしており、昨年度のパリ博では大変好評であったと聞いている。大阪万博もあるので、世界にもっとうちわを売りこみたいと考えている。

以上、2点がここ最近でうれしかったことである。本日はよろしく願います。

2. 第1部 コミュニティ活動の紹介・意見交換会

(会長)

岡田コミュニティの第3期のまちづくり計画の概要について説明したいと思う。まちづくり計画は、市の総合計画に取り上げられている5つの基本目標にリンクさせながら、住み続けたいまち岡田を目指し、平成23年の第1期のまちづくり計画から始まり、現在第3期計画の3年目となっている。

5項目のテーマを設けており、1番目に「心豊かな子どもの育つまち」、2番目に「活力のみなぎるまち」、3番目に「安心して暮らせるまち」、4番目に「健康に暮らせるまち」、5番目に「みんなでつくるまち」。この5つのテーマを柱に、市の協力と指導を仰ぎながら進めている。

令和元年には、現在も好評である移動サービス「お出かけ便」を立ち上げ、順調に継続している。そして、令和3年には組織改正を行い、子ども未来部を創設して学校と協調しながら、まちづくりを進めている。

そうした中、コミュニティは行政機関ではないが、行政の仕事を分担している面もあり、住民の要望等に応えるように事業を行っている。今後ますます良いコミュニティ活動ができるよう頑張っていきたいと思っているので、7年度予算には事務局員等に対する予算も十分検討いただきたいと思っている。よろしく願います。

(所長)

新丸亀市になったと同時ぐらいに、コミュニティの組織が市内全域にできた。これは他の自治体から見ても非常に珍しいと思われている。本日、新潟県三条市から、移動サービスのことで視察に来られていたが、全部の地域にコミュニティ組織があり、行政と協力しながら進めていることは非常に素晴らしいと、お褒めの言葉をたくさんいただいた。

ただ、コミュニティ組織も出来上がってから15年以上経っているので、高齢化に伴い課題が出てきている。そこで、第1部のまちづくりにおける課題としては、耕作放棄地等の対応や農業振興策についてあげさせてもらった。

(コミュニティ1)

家で農業をしており、身近で常に感じていることを要望させていただきたいと思う。少子高齢化に突入し、後継ぎの問題が発生している。岡田でも遊休農地や耕作放棄地が増えており、それと関連して、竹林の拡大や空き家の問題もある。農業が儲からないから、後継ぎもできなし、耕作放棄地も増えるのだと思う。耕作放棄地が増えている現状を踏まえ、市として農業の振興策を考えられているのか、まずはその点を伺いたい。

もう一つ、耕作放棄地が増える原因として、農機具の更新費用が非常に高いことがあると

思う。米の耕作面積は年々減少しているが、まだまだ米づくりに励んでおられる方がたくさんいる。儲けを度外視して米づくりをしている人も、機械が壊れたらもうやめるといふ声があちこちから聞こえる。一方で、認定農業者や法人といった大規模農家に対する農業資材や農機具の補助制度が手厚くなっている。しかし、彼らは米を作らずに麦や野菜だけをつくる。農機具が古くなったら、今後ますます耕作放棄地が増えるのではないかと思う。農機具の補助制度については、高価なので非常に難しいとは思いますが、市として何か対策をお願いしたいと思う。

(市長)

1点目の耕作放棄地、遊休農地が増加している問題については、農業委員会が農地利用調査を毎年行い、現状の把握に努めている。耕作放棄地については、農地中間管理事業等を活用した利用権設定につなげるように取り組んでおり、遊休農地解消の必要性・可能性が高い農地から優先的に行っている。地域農業や生活環境に及ぼす影響が高いという点で、綾歌地区も優先度は高いが、ご存知のとおり、なかなか進んでいないというのが現状である。

正直申して、農業委員会も市も苦慮しているのだから、皆様方からのご意見もいただきながら、問題解決していきたいと思っている。

2点目については、私も7年前までは水田をやっており、祖父は専業農家、父親は兼業農家でずっと田んぼをしてきたので危機感を持っている。農機具代について、父親が稲刈り機や田植機を買い換えているので、ものすごくお金がかかることは承知しているが、農機具の補助を市が単独でするとなると相当な金額になることから難しい。

小規模農家に対しては、防除薬剤や露地野菜の種子購入に対しての補助を行っており、そのほかには物価高騰に対する1反あたり1万円の支給や肥料購入の補助を行った。農業経営が継続的にいけるような支援をしたいという思いを強く持っている。

1反あたり1万円の支給は、臨時交付金で2年間行っており、次からは市単独で出さなければいけない状況であり財源的なところがまだ整っていないが、3年目も支給したいと思っている。そのほかにも、丸亀でとれた「おいでまい」の新米を、22歳までの子どもたち全員に5kgずつ配ることが決まっております、子どもや若者に丸亀で作られた新米の美味しさを知ってもらいたいと思う。

また、丸亀の農業の現状については国にしっかりと訴えており、耕地面積などの各地区に見合う取り組みをしてもらいたいと陳情している。今後も農業政策については、携わっている皆様方にご意見とご指導をいただきながら取り組んでまいりたい。

(コミュニティ1)

お話を伺い、私以上に農業のことをよくご存知であり、大変熱い思いを持っていることがわかった。よろしく願います。

(所長)

次に自治会加入率の低下、コミュニティ組織の維持発展について、前会長から願います。

(コミュニティ2)

自治会加入率の低下について、他の地域はコミュニティ自治会という名目で加入率を上

げるための対策を行っているが、当地区では行っていない。岡田地区の加入率は現在約 80%で、別棟で暮らす子どもの世帯を含めると 90%を超えている。今のところ大きな問題にはなっていないが、高齢化が進み、地域の世話ができないということで自治会から脱退する人も出始めている。高齢者を支えるため自治会は非常に重要な組織だと考えるが、高齢化が進む中、これらを発展させていくため、行政がどのような取り組みをしていくのか、お尋ねしたい。

これに伴い、コミュニティ組織についても維持管理が非常に難しくなっている。平成 17 年の合併後、岡田地区もコミュニティ組織の中に入り、役所と住民が協力してまちづくりをする体制ができたが、今は我々が利用されるような立場で、何もかもコミュニティに頼んだらいいというようなシステムになっているのが現状であり、役所にとって非常に都合のいい組織になっているのではないかと考える。

今までは 60 歳定年の方がコミュニティ活動に参加してくれていたが、それが 65 歳になり、今では 70 歳を過ぎても就労している人が多くなってきている。コミュニティ発足時代にコミュニティ活動に参加していた人も 75 歳を超えるような年齢となっており、これらの人がコミュニティ活動から外れると組織は成り立たないと思われる。

今後も持続可能な組織でありつづけるような方策を考えていかなければならない。住民のボランティア活動によって成り立っているコミュニティ組織の維持管理に対して、市はどのような認識を持って、どのような方策を取ろうとしているのかお尋ねしたい。

(市長)

まず、自治会加入率の低下については、高齢化が進み、未加入や脱退など加入率低下が大きな課題になっていることは認識している。市では加入率を上げるために、自治会の必要性をまとめたチラシや自治会のしおり、自治会加入促進マニュアル等を配布しており、また、転入者に対しては加入促進チラシを使った啓発を行っている。また、未加入世帯に働きかけを行う自治会加入推進員という専門の職員も配置し、加入促進に取り組んでいる。

このような施策等はやっているが、大きく実を結ばないのが現実。今後、人口減少に伴い高齢化率はどんどん上がっていき、高齢化社会での困りごとが増加すると思うので、相談業務等の支援にも一層力を入れて取り組みたいと考えている。

先ほど、コミュニティは行政に利用されているといった話がありましたが、そのようなことは本当に考えていない。市長になって、色々と見ていく中で、職員は本当に苦勞していると思う。「残業せず帰ろう」と言っているが、それでも残業や休日出勤をしている職員が多く、想像していた以上に職員は苦勞している。休日出勤で仕事をしたら時間外をつけなさいと常々言っているが、自分が気になっている仕事を休日に出てきて残業をつけずやっているケースがある。絶対にやってはいけないことだが、現実にはある。18 年前、最初に市議会議員をさせていただいたとき、当時の管理職は時間に余裕があった。しかし、今の部長や課長は走り回っている。部長や課長はもう少し地に足をつけて、もっとマネジメントに力を入れるべきだと思うが、多種多様な仕事が増え、それを一生懸命こなしてはいるが、こなきれなくて部長課長も走り舞いしているのが実情。仕事量は 18 年前から比べて倍以上にな

っていることは、市長になってから痛切に感じている。私もコミュニティ活動をやっていて、市に利用されていると感じたこともあったが、皆さんにも市の現状を理解していただきたい。

時代が変わっていく中で、それに沿った組織にするべきだということで、協働推進部という新しい部を作ろうと思っている。協働というのは、市民の方々、また民間企業や団体と協力をしながら、一緒にまちづくりをすること。一緒にやっていかなければいけない時代が来ていると思っており、皆さんにご苦勞をかけるのも確かだが、その分職員も私も気を引き締めて仕事にも取り組んでいこうと思っている。

もう1つのコミュニティ組織の維持発展について、担当課からの回答をお伝えする。

早期の人材発掘が必要であるため、世代を問わず、参画できるまちづくりは喫緊の課題ととらえている。市では横断的な地域政策の展開を図ることを目的に、コミュニティとのパイプ役として地域担当職員制度を取り入れており、この制度を活用しながら、今後も引き続き地域との連携を図り、若年層をはじめ様々な世代の人たちが地域活動へ参画できるよう取り組みを推進してまいりたい。

ただ、現実には仕事などで忙しい若者がなかなか入ってくれない。そこで、70歳を超えようが80歳を超えようが、元気な人やできる人は頑張ってもらうしかないと思っている。それともう1つは、若い人の気持ちも理解してもらいたい。その中でも岡田地区は若い方々と上手くやっていて、見本にしたいと思う。時代が変わり、考え方にも変化があると思うので、その部分を理解していただいたうえで、コミュニティ活動を楽しみながらボランティアとしてやっていただきたいと思う。その代わりに、自治会長や民生委員、保護司などの手当などやコミュニティへの助成金について、再検討するよう指示はしている。

今日伺ったことはものすごく大事なことで、人口減少対策については丸亀市が近隣の市町を引っ張っていかねばならないと思っている。それと、ボランティアにはなるが皆様にも頑張ってもらいたいと思っている。

(コミュニティ2)

コミュニティから活動に参加してくださいとお願いして、ようやく組織が成り立っている。他の地域は部を減らしてまでコミュニティ活動をしているのが実情。

(コミュニティ3)

先ほど手当の話が出たが、手当をいただくと責任が発生してしまう。お出かけ便もそうだが、手当の問題ではなく人が欲しい。手当を上げたらいいいという、そんな簡単な問題ではないと思う。

(市長)

例えば、民生委員さんは、車での移動やそれ以外にも自身で持ち出しをしていることが実際多い。多くの方が手当を超えた活動を行っているので、もう少し増やしてあげたいという思いがある。

(コミュニティ3)

民生委員さんなんかは相手がいるので手当を増やすことはあってもいいと思うが、基本

的にはボランティアであることをご理解いただきたい。言い方は悪いが、少々の手当てをもらってもという思いである。

(市長)

ただ、コミュニティの活動に対し、補助金などを出していると思うが、これは増えた方が絶対にいいと思うが。

(会長)

それは増えた方がいいと思う。

(所長)

運営助成金の積算基礎になる項目は幾ら増えても構わない。

(会長)

私が今一番望んでいるのは、若い人が住み着いてくれること。大胆な提案ではあるが、住宅取得に対し負担してあげれば、若い人は離れずに子どももそこで育つ。例えば、30歳から90歳まで生活すると60年間税金が入ってくる。投資した分が税金で戻ってくるという長期的な視点で考えるべき。少しだけ補助金を出しても人口は減るばかりである。若い人をいかに市に引き付けるかいうことを念頭に大胆にやらないと、他の市町と一緒にしてしまうので、十分考えて対策を練っていただけるとありがたい。大胆にやることによって、10年後には他の市町では人口が減っているが、丸亀だけが人口が増えて住民の生活が豊かになるということもありえるのではないか。

(市長)

中讃と西讃は本当に丸亀が頑張っていかなければ、全部がダメになると思っている。市長や町長には丸亀と同じようなことをやろうと声をかけているが、なかなか一緒にやってくれない。

(会長)

どこかの自治体では家を建てるのに200万円を出すらしいが、そんな中途半端なことでは人口は増えないと思う。大胆に若い人の人口が増える方策をとっていったほうが、長い目で見たら丸亀の発展につながると思う。

(コミュニティ3)

働く場所がなければ人は出て行ってしまうと思う。例えば、耕作放棄地の固定資産税をゼロにして企業誘致を行えば、働く場所ができ、人も集まる。それで儲かれば、さらに人が増える。

(市長)

小さいことかもしれないが、私の夢であった小中学校の給食費の無償化と18歳までの医療費の無償化が今年の4月からできた。すると、まんのう町や善通寺市のアパートで住んでいた人が丸亀に家を建てている。

(会長)

若い人は生活が大変なので教育費などで助けがあれば、移住してくれると思う。移住して家を建てれば住み続ける。そうなればコミュニティにも若い人が増えて、良い循環が生まれ

と思う。

(市長)

今言われたように若い人に魅力のある施策を打ち出せば、そこに家を建てて住むという選択も必ずあると思う。市役所は職員全員が政策集団であり、若い人も自分がいいと思う政策を出すようにと言っている。今はデジタル社会と言われているが、丸亀市はデジタル化が実はものすごく進んでいる。12月から市役所の一部の窓口でマイナンバーカードがあれば、名前や住所、電話番号が書かれた申請書を出せるようになった。また、11月からは保育所の入所申し込みをスマートフォンからもできるようになり、窓口に来なくていいようになった。これは丸亀市の職員が開発した。

(所長)

若い人たちが増えるような政策を、ぜひお願いしたいと思う。

3. 第2部 テーマ選択方式による意見交換

(所長)

第2部で選択したテーマは、地域と学校の関わりについて。岡田コミュニティでは第3次まちづくり計画の中でこども未来部をつくり、学校とコミュニティとの関わりを深めていこうと取り組んでいる。このことについて、こども未来部の部長から。

(コミュニティ3)

所長から説明があったとおり、第3次まちづくり計画では、丸亀市のコミュニティスクールの制度に合わせて、こども未来部を立ち上げた。他の地域のコミュニティと違って、地域学校協働本部が岡田地区にはない。最初、ないと困るのではないかと思ったが、逆にあるほうが大変だろうということになった。その代わりに、コミュニティ全体で地域学校協働本部になってくれないかとことで、役員の皆さん方にもお願いをしてやってきている状況である。こども未来部が発足して丸3年になるが、コミュニティの方々を巻き込んでやるのが本当にいいのかという思いがある。

市の職員の方にまた仕事を作ってしまうかもしれないが、もう丸3年経つのでコミュニティスクール制度の総括をやっていただきたい。ほかの地域の事業内容や課題などを知り、それを参考にしていきたい。

もう1点は、先ほど前会長からの話でもあったが、最初は市からやらされている感が強く、なぜこんなことをしなくてはいけないのかという気持ちがあった。しかし、子どもたちがコミュニティにやって来て、名前を呼んで手を振ってくれたり、小学校や保育所へ出向いて色々やっているうちに、子どもたちなりに顔を覚えてくれたりと、うれしいこともある。ただ、小学校やこども園、保育所でやってくれてもいいようなことまでお願いされることがある。コミュニティスクールによって、お願いしたら何でもやってもらえるという意識があるのではないか。そういったこともあり、コミュニティスクールの制度の是非とはまでは言わないが、各地区でどのような課題を抱えているのかなどをまとめていただければ、それを参考にしたい。よろしく願います。

(市長)

日頃から色々なことに取り組んでいただき、本当に感謝する。

コミュニティスクールというのは文部科学省が推奨しており、丸亀市もいち早く取り組んできた。小中学校の地域連携推進協議会を開催し、推進方法とかの検討・決定をしている。細かいところまでは知らないが、学校に裁縫やミシンを教えに行ったり、地域行事を披露して歴史と文化を教えたりと、地域で様々な取り組みを行っている。

現在、教育委員会で一番の問題と捉えているのが、不登校生徒の増加。学校としては、子どもたちに真正面から向き合う時間をもっとつくりたいというのが本音。しかし、先生の数は決まっているので、あとは市費講師を雇うしかない。私が市長になって、その市費講師や支援員を増やそうとしているが、それでもまだ足りていない。雇いたくても講師と支援員のなり手がいないというのが現実。そういった中で、地域の人たちが学校に協力して子どもたちに何かを教える、また、見守るといった形をとっている。現時点で総括はしていないが、各地域で問題点はあると思う。

学校運営に対して、地域の方々も一緒にやっというのは国をあげてやっていることで、こども未来部をつくっていただいたことはすごく大きいことだと思う。

教育委員会ではなく私の考え方が大分入ってきますが、私の理想像は、校長の考えをまず地域が理解して、校長の思いを実現できるよう協力することが、コミュニティスクールの真髄だと思っており、まち全体が学校ということだと思っている。私が知っている限り、校長先生は本当に子どものことを愛していて、子どものことをものすごく考えている。

地域によっては逆に学校を困らすような協働本部もある。地域の方の声が強すぎて、学校が地域に遠慮をしてしまう状態になっている。

(コミュニティ 3)

岡田はそういうことはない。むしろ逆。

(市長)

岡田地区は本当にいい形で進められていると思う。

教育委員会では校長の権限を強くしている。校長の要望を教育委員会も応援するというような形。市長になって分かったことは、教育委員会の職員の人たちは本当に子どものことと思っている。すごいなと思う。休みがないくらいやっている。それに加え、保護者とのトラブルにも対応するなど苦労もたくさんしている。先ほども不登校が増えているという話をしたが、コロナ前の3倍まで増えており、大問題だと思っている。担任や副担任がもっと子どもたちと向き合うための時間を増やしてあげたい。学校を助けてあげたら、子どもたちのためになると思っていたいて、しんどいでしょうけど、より一層ご尽力いただきたい。

(コミュニティ 3)

学校ごとに校長先生の考えが踏襲されていると感じる。私は人権擁護委員をやっているが、作文コンテストや標語コンテストでは、出てこない学校はずっと出てこない。

(市長)

地域にすごく遠慮してしまう先生もいる。しかし、地域も学校もお互いに子どもたちのた

めにやっているの、先生には遠慮なく思ったことを言ってもらいたい。

(コミュニティ 3)

岡田の場合は逆で、色々と言われる。草刈りをしてほしい、木が枯れているなど、暑い夏に保護者会や研究会があるからと草刈りを頼まれることもある。できるときはやるが。

(市長)

それはPTAがするものでは。私は、PTA会長もやっていたが、掃除ばかりしていた記憶がある。

(コミュニティ 3)

学校によっては、やるべきことをやってくれるPTAもあるかもしれない。しかし、若いPTAの方々と一緒にやることはなかなか難しいと感じている。仲良くやりたいが遠慮してしまう。それぞれのコミュニティの課題と対応を知ることができれば、心が少し休まる。

(市長)

教育委員会に伝える。

(コミュニティ 1)

教育委員会は力がなさすぎる。校長に対して何も言わないので、もう少し教育委員会は上からやってくれたらいいのだが。

(市長)

教育委員会は退職した方もいるが、まだ校長教頭にまだなっていない先生もいて、その方々が主になって仕事をやっている。校長や教頭より年下の方が多い。

(コミュニティ 1)

学校によって対応が全然違うことがある。防災についてはどの学校も同じようにしなければならぬのに、この学校は対応してくれるけど、この学校は対応しないということがあつる。教育委員会にはもう少ししっかりしてほしいと思ってしまう。

(市長)

教育長には話をする。

(コミュニティ 3)

持続可能という言葉があるが、本当に大事な仕組みであれば、長続きさせることを考えていただきたい。コミュニティスクールは、このままいくと地域によっては立ち消えるのではないかと思う。岡田がそれに近い。誰かこども未来部をやってくれますか?となったとき、やりますという人は多分いないのではないか。

(市長)

時代の流れは協働なので、市では協働推進部をつくって推進していこうと考えている。

(所長)

市長の人柄がよく出た受け答えをたくさんいただいたと思う。今後ともよろしくお願ひする。最後に一言、副会長からお願ひする。

(コミュニティ 3)

本当に討論会になるのかと最初思っていたが、1時間以上話が出来て非常によかつた。市

職員の皆さんも忙しいかもしれませんが、地域担当職員の方に限らず、たまには岡田に来ていただいて、何をしているのか見ていただくことで、風通しを良くしていけたらと思う。先ほど所長も言われたが、今日は市長の人柄がよく分かり、話しやすくて良かった。遠いところ来ていただき感謝申し上げます。

(市長)

今日言われたことは、きちんと教育委員会や各担当部署にも共有していく。